

水稻生育情報 (No.3)

令和8年7月30日
茨城県 県西農林事務所 経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)

【生育概況】

本年の5月から7月第5半旬までの気象は、日平均気温が平年より0.9℃高く、降水量は平年比130%、日照時間は平年比111%でした。

7月21日時点の管内の水稻定点ほ場における「コシヒカリ」の生育状況は、草丈、茎数は平年並み、葉色はやや濃くなっています。

表1 水稻定点調査結果(7月21日現在:コシヒカリ)

調査地点	田植日 〔月日〕	植付株数 〔株/坪〕	草丈 〔cm〕	茎数 〔本/m ² 〕	葉色 〔葉色板〕〔SPAD値〕	幼穂長 〔mm〕	出穂予測日 〔月日〕
筑西市	5月7日	50	96	363	3.9 30.8	走り穂有り	7月24日
一本松	(5月5日)	(53)	(97)	(403)	(3.4) (32.1)	(139)	(7月26日)
桜川市	5月7日	50	94	465	3.5 32.4	136	7月28日
真壁町飯塚	(5月7日)	(51)	(97)	(426)	(3.3) (31.2)	(115)	(7月29日)
下妻市	5月5日	46	97	444	3.8 33.9	穂ばらみ期～走り穂有り	7月25日
加養	(5月1日)	(46)	(102)	(482)	(3.7) (31.5)	(200)	(7月23日)

※()内は令和3年～令和7年の5カ年平均値

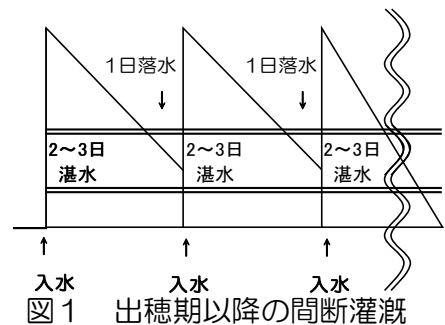
※出穂予測日の平年値は、過去5カ年出穂日の平均値

※出穂日は今後の天候により前後する場合があります。

【これからの栽培管理のポイント】

1 水管理について

中干し以降は根腐れ防止のため5日以上連続湛水は避け、**入水→自然落水をくりかえす間断灌漑**(図1)を行いましょ。また、**早期落水**は登熟不良、**胴割れ粒発生**の原因となります。間断灌漑の終了時期は、早生で出穂後25日、中生で30日以降を目安にしましょ。



2 斑点米カメムシ類防除について

7月上旬現在、**斑点米カメムシ類**が平年よりやや多く観測されています(県 病害虫防除所、病害虫速報 第5号)。周辺の水田と出穂時期の異なる**早生や晩生品種**では被害が集中しやすいため、特に注意が必要です。必要に応じて追加防除を行ないましょ。

薬剤による防除適期は、**不稔の発生防止であれば出穂期～穂揃期、斑点米発生**の防止であれば**乳熟期(出穂後10～15日頃)**です。

3 適期収穫について

早刈りは千粒重が軽くなり、収量を低下させるとともに、玄米への青未熟粒の混入割合が増えて、落等要因となることがあります。一方で、刈り遅れは胴割粒などの被害粒や茶米・着色粒の発生が増えて、早刈りと同じく落等要因になり得ますので、適期収穫を心がけましょ。

ほ場で直接籾の色(帯緑籾率)を確認して適期収穫に努めて下さい。**収穫適期は帯緑籾率が10%になってから5日間**です(図2)。

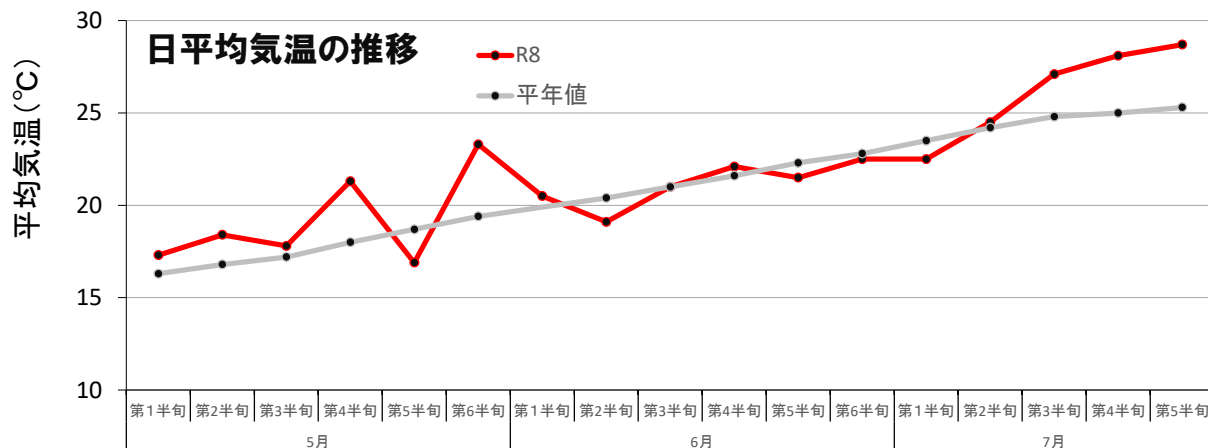


帯緑籾率 (%)	成熟期 前日数
55	11
30	8
25	6
20	4
15	2
12	1
10	成熟期(収穫適期)

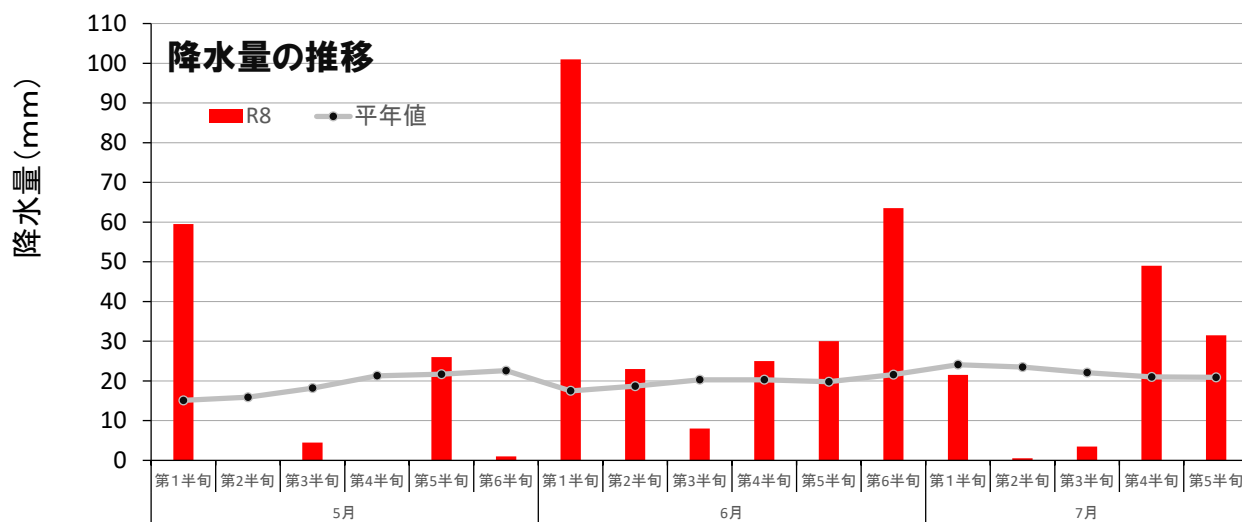
図2 帯緑籾と黄化籾の判別(左)、帯緑籾率と成熟期前日数(右)

参考（気象データ：アメダス下館地点。平年値は 1991～2020 年の値。）

①日平均気温



②降水量



③日照時間

